

# 徳島大学70年史に寄せて

徳島大学長 野地 澄晴



## はじめに

徳島大学は、新制の国立大学として1949(昭和24)年に創立されましたので、本年、2019(令和元)年は、創立70周年となります。2009(平成21)年に創立60周年記念事業が、第11代青野敏博学長により盛大に挙行されましたが、その後10年が経過し、奇しくも令和の時代になりました。この10年、少子・高齢化が進み、現在に至っています。毎年運営費交付金が1.2%削減され、その効果が顕在化し、人件費を削減せざるをえないほど財政的に厳しい状況になっています。この状況の下で、課題を解決するために大学改革が要求されてきました。その意味でこの10年は、第12代香川 征学長(2010(平成22)年から6年間)と後任の私(4年間)が、全教職員の協力のもとに行ってきた大学改革の10年と言えるでしょう。ここでは、この10年の改革について振り返り、次の10年を考えるための参考になればと考えています。

## 活躍する徳島大学の卒業生・修了生

徳島大学創立後、70年間に5万8千人以上の卒業生、1万8千人以上の修士または博士を社会に送り出しています。特に卒業生の中村修二教授(カリフォルニア大学サンタバーバラ校)が2014(平成26)年にノーベル物理学賞を受賞され、同じ年に、田中啓二理事長(〔公財〕東京都医学総合研究所)が文化功労者として顕彰されています。また、東原敏昭氏は、日立製作所代表執行役執行役社長兼CEOに2016(平成28)年に就任しております。他にも多くの卒業生が様々な分野で活躍しています。

## 学部の改革

当初は学芸学部、医学部、工学部の3学部で発足し、1951(昭和26)年に薬学部が工学部より独立し、1976(昭和51)年には歯学部が新設され、学芸学部は教育学部を経て1986(昭和61)年に総合科学部に改組されました。2016(平成28)年には徳島県にも農学系の学部が必要であるとの要望から、生物資源を活用した新たな産業の創出を担う人材育成のため、生物資源産業学部が新設されました。工学部と総合科学部の理系の教員が中心となり、1学部1学科の理工学部へ改組し、現在の6学

部体制になりました。教養教育を充実するために教養教育院を2016(平成28)年に新設し、学生の「入学前から就職に至る」一貫した支援を強化するため、2019(令和元)年度に「高等教育研究センター」を設置しました。

## 大学院の改革

2004(平成16)年度に徳島大学は大学院大学になり、教員組織と教育組織を分離し、教育組織である大学院を教育部と名付け、大学院総合科学教育部、大学院医科学教育部、大学院口腔科学教育部、大学院薬科学教育部、大学院栄養生命科学教育部、大学院保健科学教育部、大学院先端技術科学教育部の7教育部で構成されました。2020(令和2)年度に、常三島地区の大学院は統合され、大学院創成科学研究科(4専攻:地域創成専攻、臨床心理学専攻、理工学専攻、生物資源学専攻)を設置予定です。一方、教員組織である研究部については、医歯薬学系の教員を大学院ヘルスバイオサイエンス研究部に所属しました。大学院ヘルスバイオサイエンス研究部は、2015(平成27)年度から大学院医歯薬学研究部に改組されました。2006(平成18)年度には工学系の教員は大学院ソシオテクノサイエンス研究部に、2009(平成21)年度には人間・自然環境研究系の教員は大学院ソシオアーツアンドサイエンス研究部に所属しました。2017(平成29)年度からは、両研究部を統合し、大学院社会産業理工学研究部を設置し、現在に至っています。

## 研究支援と産官学連携の改革

異分野融合型研究の推進による新たなイノベーションの創出を目指して、分野を越えた複数の研究者からなる研究集団(研究クラスター)に対する研究費の重点支援等を実施する「研究クラスター支援制度」を2017(平成29)年度から実施しました。教員に平等に配分している研究費とは別に、学長裁量経費(大学機能強化事業支援)1億円を確保し、千人の教員に10万円を平等に配分するのではなく、長期的には大学に資金が還元される可能性のある研究に投資し、研究費が投資額以上に増える仕組みを考えています。この仕組みは、大学病院の仕組みを取り入れ、収益を上げるための組織として2018(平成30)年に新設した大

学産業院と連動し、研究クラスターで得られた研究成果を社会実装する大学発スタートアップを創立しました。社会課題を解決して収益を上げ、その収益を大学に還元します。

地域課題の解決と豊かな地域社会の創造を推進し、多様な人々の生涯にわたる学びに対応するため、「人と地域共創センター」を設置し、5分野(リカレント・コンシェルジュ、地域人材育成、インターシップ教育、ファブラボなど共創支援、地域共創研究)の取組を2019(令和元)年から実施しています。

また、外部資金を多様な方法で獲得するための一つとして、クラウドファンディングを2017(平成29)度から実施しています。一般社団法人・大学支援機構を設置し、クラウドファンディングサイトOTSUCLE(おつくる)を立ち上げ、これまで累計38,365千円の支援を得て、研究費や社会貢献などの支援を行なっています。

## 研究所の改革

現在、徳島大学の研究を担う2つの研究所があります。蔵本地区には2016(平成28)年に「先端酵素学研究所」、常三島地区には2019(令和元)年に「ポストLEDフォトニクス研究所(pLED)」が設置されています。「先端酵素学研究所」は、医学部に「附属酵素研究施設」が1961(昭和36)年に設置されたところからスタートします。1987(昭和62)年には「酵素科学研究センター」、1997(平成9)年には「分子酵素学研究センター」、2007(平成19)年には「疾患酵素学研究センター」と改組を重ね、2009(平成21)年に「共同利用・共同研究酵素学研究拠点」に認定。2016(平成28)年に、「疾患酵素学研究センター」と「疾患プロテオゲノム研究センター」を改組するとともに、「藤井節郎記念医科学センター」と「糖尿病臨床・研究開発センター」を附属施設として統合することによって、「先端酵素学研究所」が設置されました。「疾患プロテオゲノム研究センター」は2012(平成24)年に、1998(平成10)年に設立された「ゲノム機能研究センター」を発展的に改組して設立されました。一方、「藤井節郎記念医科学センター」は、医学部酵素生理学部門教授を務められた故藤井節郎博士の功績を記念して設立された一般財団法人・藤井節郎記念大阪基礎医学研究奨励会からの寄附により2013(平成25)年に設立されました。「糖尿病臨床・研究開発センター」は、糖尿病が徳島県で克服すべき最重要課題のひとつであることから、2010(平成22)年に徳島大学に設立されました。糖尿病の発症予防、重症化の阻止、健康寿命の延伸を目指した基礎研究から臨床医学研究を推進しています。

「ポストLEDフォトニクス研究所(pLED)」は、理工学部のフロンティア研究センターを発展的に改組して、2019(令和元)年に設立されました。特に、2018(平成30)年度の「地方大学・地域産業創生交付金」の交付対象事業に徳島県の提案である「次世代“光”創出・応用による産業振興・若者雇用創出計画」が採択され、徳島大学がこの事業を中心的に展開することになり、研究

所の設置が不可欠となりました。pLEDは、1研究所1研究室のコンセプトの下に、安井武史研究所長により運営されています。

## キャンパスや施設などの整備

2015(平成27)年に、徳島大学病院の新外来診療棟が完成しました。1995(平成7)年より大学が進めてきた足掛け20年の病院再開発計画は、東病棟、中央診療棟、西病棟に続き、これにより完了となりました。また、徳島県立中央病院との間の塀が撤去され、バスの停留所が設置される等、徳島総合メディカルゾーンが形成されています。ほかにも蔵本地区(病院及び医歯薬学部キャンパス)においては、薬局等が入居する複合施設及び、看護師宿舎や認定保育園のほか留学生居室等の多様な用途に供する複合施設の2棟を本学では初となる民間資金を活用したPPP方式により整備運営する事業契約を締結しています。

また同年、地域創生・国際交流会館が設置されました。徳島県における地域創生、国際交流に大いに貢献する拠点として、本学の一層の飛躍を担う施設となっており、5階にあるフューチャーセンター[A.BA(アバ)]は国立大学法人では初の設置で、「出会い」「発想」「共創」による参加型オープンイノベーションスペースであり、そこで練上げられる地域創生へ向けられた自由闊達な対話の場として、憩い、食、DIY、伝統・文化の要素も取り入れた空間を構築しています。

2016(平成28)年には、生物資源産業学部の設置に伴い、その農場として、石井町の徳島県の農業大学の移転後の土地(約10hr)を徳島県から貸与していただきました。現在、創業・医療機器開発施設を設置し、豚を用いた研究が行われています。この地域には、徳島県農林水産総合技術支援センターが隣接しており、アグリサイエンスゾーンと呼んでいます。鳴門市には、水圏教育研究センターがあります。主に海藻の養殖や、海藻を用いたアワビ等の養殖技術についての研究を行っており、学生のフィールド実習に使用されています。ここには、徳島県の水産研究課鳴門庁舎が隣接しており、マリンサイエンスゾーンと呼ばれています。2019(令和元)年には、阿南工業と新野両高を統合した阿南光高校の新野キャンパスに、徳島大学が関与し、6次産業化を担う人材を育成する「とくしまイノベーションセンター」も設置されました。高校生の教育も行う新規の高大接続事業となっています。

## 謝辞

創立70周年事業に対して、皆さまから多大なご支援をいただき、この紙面をお借りして、お礼を申し上げます。ありがとうございました。徳島大学は、今後も教育・研究基盤を強化して、地域から国際的な課題を解決する大学を目指して努力いたしますので、皆さまのご支援、ご協力をお願い申し上げます。